

近畿大学  
心理臨床・教育相談センター紀要

第2巻

Vol.2

2017

近畿大学  
心理臨床・教育相談センター

## 目 次

巻 頭 言	小泉 隆平	
<b>論文</b>		
就学時の環境変化についての直接観察によるアセスメント	大対香奈子・梅本 美南	1
問題解決療法プログラムによって形成された対人的問題解決における意識 —大学生を対象とした「コミュニケーション心理学実習」における試み—	本岡 寛子・直井 愛里・大対香奈子・堀田 美保	15
<b>事例論文</b>		
イライラに振り回された男子高校生と母親の面接過程 —エイジェンシーを発揮するということ—	卒田 卓也	25
<b>事例報告</b>		
適応障害で休職中の男性への面接過程	山路 和英	35
嘔吐不安で外食ができない小学6年生女兒とのプレイセラピー	伊佐 香織	41
<b>学外実習報告</b>		
近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科について学外実習報告	畑中 慎平	47
箕面市教育センターについての学外実習報告	畑中 慎平	49
近畿大学医学部附属病院心療内科についての学外実習報告	山路 和英	51
東大阪市教育センターでの学外実習報告	山路 和英	53

## 学内実習報告

心理臨床・教育相談センターでの実習を通して	英賀 舞子	55
心理臨床・教育相談センター活動報告	北山 徹也	57
心理臨床・教育相談センターでの学内実習報告	阪野 大	59
心理臨床・教育相談センターでの学内実習報告	南川 萌	61

2016年度 心理臨床・教育相談センター活動報告	奥野洋子・本岡寛子	63
--------------------------	-----------	----

## 資 料

近畿大学 心理臨床・教育相談センター紀要 執筆要項		72
近畿大学 心理臨床・教育相談センター規程		73

## 巻 頭 言

平成28年4月1日付けで第2代近畿大学心理臨床・教育相談センター長を拝命しましたので、ご挨拶申し上げます。

近畿大学大学院総合文化研究科臨床心理学コースでは、科学的な方法や態度と同時に心理的な援助に必要な知識や技術を身につけた地域に貢献する臨床心理士を養成しています。学内にある心理臨床・教育相談センターは、学生の臨床教育の場であるだけでなく、相談業務や講演会、相談会等を通して地域に貢献する役割を果たそうとしています。

平成29年4月から、これまでの平日と土曜日午前に加え、土曜日午後も開室しました。それに伴い相談員1名を増員し、いずれも臨床心理士資格をもつ専門性が高い4名の相談員でなる相談体制となりました。さらに、臨床心理士資格をもつ事務補佐員2名の配置も行い、地域に開かれた相談体制をさらに充実させました。学生は学内外での充実した実習、陪席、スーパーヴァイズによって実践力と研究力を身につけています。学生の指導にあたる教員も心理臨床・教育相談センターを中心とした心理臨床の現場で実際に相談業務に関わることで学生への教育に大きく貢献しています。

「近畿大学 心理臨床・教育相談センター紀要」の発行は、心理臨床・教育相談センターでの教育・研究の発展を定期的に検証するものとなります。研究成果が積み上がることによって心理臨床・教育相談センターの実践と科学性が担保されるものと考えています。

近畿大学大学院総合文化研究科臨床心理学コースは昨春2期生が修了したばかりの新しいコースです。今後、修了生の卒後教育をはじめ優れた人材の育成や他の専門機関との連携を密にした相談活動がますます望まれます。これまでの専門性の高い相談業務や丁寧な学生指導を受け継ぎつつ、近畿大学心理臨床・教育相談センターのさらなる発展をめざして、努めてまいりたいと考えております。皆様方のご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成30年3月15日

近畿大学総合社会学部 教授  
近畿大学心理臨床・教育相談センター長  
小 泉 隆 平

## 「近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要」 執筆要項

2017年3月改訂

1. 近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要（以下、心理臨床・教育相談センター紀要）に掲載されるのは、(1) 論文、事例報告 (2) 心理臨床・教育相談センター活動報告、(3) その他、とする。
2. 投稿資格は、近畿大学心理臨床・教育相談センターの相談員ならびに近畿大学の教員、近畿大学大学院総合文化研究科心理学専攻の学生もしくはその修了者、研修員であることとする。更に、当センターに寄与すると認める者。
3. 論文は、臨床心理学、教育相談等に関する未公開の論文とする。
4. 事例・調査の場合、対象者の了解を得る。了解が得られない場合には、個人が特定される情報には十分配慮し、プライバシーを尊重する。
5. 論文の内容は未公刊（学術および一般雑誌、大学や研究機関の紀要、一般図書に掲載されたことのない）のものに限る。
6. 論文は、内容によって研究論文、事例報告に分けられる。論文は臨床心理学、教育相談等に関する学術論文を示し、研究論文は、A4の用紙で縦置き・横書きで40字×40行×10枚を限度とする。事例報告は、40字×40行×8枚を限度とする。実習報告は、40字×40行×5枚を限度とする。
7. 論文は、ワープロソフト（Wordを基本とする）を用いて作成した論文1部とそれを記録した電子媒体（FD、CDなど）を提出する。1ページは1600字（40字×40行）横書きとし、10.5ポイント以上のサイズの文字を用いる。
8. 研究論文の構成は、表題、著者氏名と所属、英文表題、英文著者氏名と所属、日本語要約（キーワードを含む）、問題（または目的）、方法、結果、考察、引用文献からなることを原則とする。英文論文の場合、ネイティブスピーカーに校閲を受けることが望ましい。
9. 論文原稿の作成にあたって留意すること。
  - (1) 原稿第1ページから本文とし、付記、謝辞、文献まで続ける。別紙に表題、著者名、英文著者名と所属機関名（教員は学部まで、院生はコースまで）をこの順に記す。共著の場合、すべての英文共著者名と所属機関名を記載する。
  - (2) 本文中の章、節、項には、それぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲ……、1、2、3、……、(1)、(2)、(3)、……、の番号で表記する。
  - (3) 図、表などは、別紙に記し、本文中に挿入場所を指定する。
  - (4) 句読点は「。」「，」「」とする。
  - (5) 引用文献は、論文の最後に、著者名のアルファベット順に、一括して挙げる。文献の示し方は日本心理臨床学会「心理臨床学研究」執筆要項に従うこと。
  - (6) 脚注は通し番号をつけ、別紙に記載する。本文中にはそれに対する番号を上付1/4角で付ける。
  - (7) 要約の長さは日本文の場合は400～600字、英文の場合は100～175語とする。また、5つ以内のキーワードをつける。要約とキーワードは別紙に記載する。
  - (8) 論文の投稿に際しては、紀要原稿添付表、ワープロ原稿（本文と図、表など）3部を提出する。
10. 投稿原稿の採択と掲載の採否は、編集委員会で決定し、投稿者（著者）に通知する。
11. 論文の抜刷りは、30部までは無料とする。

近畿大学 心理臨床・教育相談センター紀要 第2巻

---

発行日 2018年3月15日

編集後記 近畿大学 心理臨床・教育相談センター  
〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番15号  
TEL/FAX (06) 4307-3105

印刷 近畿大学管理部用度課 (出版印刷)

---

